

⑮ 殿上まいり

尾花では、一番雪の深い二月五日に「殿上まいり」をしてきた。エッコラヤッコラ殿上山の禪定神社にのぼって餅をまき、厄を払う行事だ。四百三十年ほど昔、信長がせめて来たときに殺されたお坊さんらの霊をとむらったのがはじまりとか。どんな大雪でも欠かさんと続いているらしい。いまは二月の第一日曜日にかわったけどの。

太平洋戦争のころは、男手が足りないので、神様を里までおろしておまつりをした。戦後は、女も山に登れるようになったけど、それまでは男だけが仕切ったもんや。お宮へは、はっぴに蓑、笠姿でかんじきをはき、しめなわやお神酒やもちをかついだ若者が先頭に立って登った。

昔は、「うっんしょっしょっしょ」「ヨーホーエー」「ヨイヤナー」と、声をかけて、しゃく杖をついてのぼった。

途中、笠松と神社前の御神木にしめなわをかける。お堂の扉があげられて一回おまいりをする。前の広場でたき火をかこみ、持参のごちそうを食べ、お酒を飲みながら話に花を咲かせる。その

うち厄年の男を大勢で胴上げする。

そして、お堂前の土手の斜面にほおりなげると、大の男が空中を舞って転がり落ちる。

土手の下の方で、いきおいづいた男を受けとめる。それからふもとからかつぎあげたもちを、参拝者に向けて厄男たちが社前の石垣の上からまく。

胴あげ、もちまきがこのまつりのハイライトだ。

こうして昔から、尾花に生まれた男は厄をはらい、無病息災を祈ってきたのだ。

